

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2193400039		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター本巣		
所在地	岐阜県本巣市曾井中島665-5		
自己評価作成日	平成25年11月12日	評価結果市町村受理日	平成26年1月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_2013_021_kani=true&li_gvsvvoCd=2193400039-00&PrEfCd=21&Versi.onCd=021
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成25年12月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

小規模や機能の「通う」「泊まる」「訪問する」の3つの機能を柔軟に活かし、住み慣れた地域で「その人らしい暮らし」をサポートするべく、きめ細やかな支援を提供させていただきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自治会や老人会などの総会に出席して事業所について説明することで、地域に受け入れられるように取り組んでいる。祭りや健康サロンを事業所で開催して多くの地域の方が参加し利用者と交流している。初めて通いを使用する初日に、食事に赤飯を出して職員・利用者共に歓迎している。食事のみの利用、入浴だけの利用、家族の同伴など徐々に事業所に馴染んでもらうために利用者に合わせて工夫を行っている。言葉遣いを大切に考え、接遇マナーが行き届き、言い切るような言葉は使用せず、常に利用者視点で考え尊厳を重視した丁寧な言葉かけを行っている。また、利用者はおお客様であり、居心地良く過ごすことができるように、常に利用者中心のケアを考え、寄り添うケアに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	【理念】私たちは誠意を以って社会参加の信条とし、社業の社会的使命を弁え、誇りを持って行動し若々しい情熱で限らない未来への可能性に挑戦します。そして社業の発展を通して豊かな人間生活の向上に貢献します。朝礼・会議の際に全員で唱和、実践の確認を行っている。	事業所独自の理念「安全運転の誓い」「三つの誓い」を朝礼や会議前に唱和している。職員は、どうすれば利用者に喜んでもらえるか常に考え、地域において、安全に安心した生活が送れるような支援を心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者様との散歩や買い物の時の挨拶の徹底や、事業所周辺の清掃、行事(ニチイ祭り、家族会など)や運営推進会議への参加の文書や事業所紹介のチラシを配布、お誘いをするなど。また、自治会への参加など積極的につながりが持てるよう努めている。	管理者は民生委員や老人会の総会に出席し、介護保険や小規模多機能サービスなど事業所を知ってもらうように働きかけている。事業所で開く祭りや健康サロンに多くの地域の方が参加し、利用者とはふれ合っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	社会福祉協議会主催の「いきいきサロン」や自治会の集まりで、認知症の方の特徴についてや介護相談、福祉用具相談会などの開催を提案させていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の状況の報告を行い、行事、感染症対策、外部評価結果などを話し合っている。避難訓練や事業所祭りと同日開催することもあり、参加者の意見をもらい、運営に反映させている。	事業所の状況、外部評価の報告、避難訓練、認知症サポーター研修会の開催、地域の行事など話し合っている。市町村担当者、老人会、民生委員等の出席はあるが、利用者や家族の出席がない。	運営推進会議等において、利用者・家族が出席しやすい開催日などについて話し合っていて欲しい。利用者、家族の意見をサービス向上に活かせるような体制作りを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	広域連合の担当者様に都合のつく限り運営推進会議に出席していただいている。また、サービス提供についての質問や相談をタイムリーに行っている。	市の広報・回覧板に健康サロンなど事業所の行事の掲載を依頼している。運営状況や利用者の生活状況、介護保険法について相談に出向いている。地域包括支援センター職員の見学もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のマニュアルに基づき研修を行っている。また、フローア入り口の施錠の禁止、夜間以外の玄関の施錠は行っていない。	身体拘束や虐待についての研修を年2回行っている。言葉かけの重要性についてミーティングや朝礼において話し合っている。職員間で日常の言葉についてお互いが再確認出来るように取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束のマニュアルに基づき研修を行っている。また、フローア入り口の施錠の禁止、夜間以外の玄関の施錠は行っていない。		

ニチイケアセンター本巢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	マニュアルに基づき研修を行っている。また、個々の利用者様の状況に応じ民生委員、地域包括支援センターに相談、助言を得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明、同意は必ず行っている。必要に応じて、又は担当者会議の場において説明、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、ご家族と日常的な関りの中で意見、要望などをお聞きし、ケアプランや運営に反映させている。また、運営推進会議の出席案内や意見収集も積極的に行っている。	日頃、家族・利用者との関わりの中で意見、要望を聞いている。家族より、やる気を出させて欲しいという要望があり、様々な作業を提供したり、賞状を贈ったりして、意欲を引き出すために取り組んだ例もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎回の朝礼やミーティング時に本社、支店から運営管理についての指示や通達を伝え、必要に応じて運営に関する意見などを話し合っている。	車椅子の方にも楽しめるプランターの工夫や、部屋の飾りつけ、物品の配置換えなど職員の意見を反映している。勤務に対する希望やシフトについては個別に面談を行って要望を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別面談を実施し、職員個々の仕事に対する思いや意見などを聞き、スキルアップ研修やキャリアアップへの情報提供も積極的に行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	講習会や研修など社外からの案内状をロッカールームに張り出し、希望者にはシフト調整をし出来る限り受講してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小規模ネットを結成し、各務原市、大野町の事業所と3ヶ月に一度持ち回りにて会場を提供し会議を開催。情報の共有や講師を招いての勉強会などサービスの資質の向上に向けた取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテークにおいて本人様に面接し、不安に思っていることや要望等をお聞きし、後のモニタリングにつなげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前に施設見学をして頂き、納得の上契約してもらっている。また、サービス導入前に担当者会議を開催し、要望等をお聞きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	個々の事情に応じたプラン作成に努めている。本人様家族様の状況の変化に対応し、プラン変更の提案をさせていただいている。また、要望や事情に応じて地域の民生委員や地域包括支援センターなどとの連携に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一日の日課の中で、家事や園芸、掃除など利用者様のADLに応じた作業を職員と共に行っていただき、存在感をもってすごしてもらえるようはたらきかけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡帳を作り、御家族の要望や本人様との関係に留意し、情報を共有し、関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行事で出かける場所の選定や通院、買い物などの支援を行っている。また、近所の方や知人が尋ねてこられた時はゆっくりと話が出るよう、なじみの関係が継続できるよう配慮している。	利用者同士の何気ない会話から馴染みの人や場所などを把握することもある。近所の人や親戚の人が訪問した時は、お茶やお菓子を出しゆっくりできるよう配慮し再訪を依頼している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の年齢や性別、性格などを把握し、アクティビティなどの場において和やかな雰囲気でも語り合ってもらえるよう、また家事や掃除など協力して行ってもらえるよう配慮している。		

ニチイケアセンター本巢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した後もスムーズに新しい環境に慣れて頂けるよう情報提供を行い、その後も必要に応じて連携をとっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	好みの音楽や食事など、家族からも話を伺い、CDを用意し聞いてもらったり、一緒に制作活動をしながらい出し話などを語ってもらう中で本人様の意向や暮らし方の希望をお聞きしている。	同じ地域の利用者が一緒に座ることで会話が弾むように配慮し、会話からそれぞれの思いなどを把握している。利用者の個人用のアルバムを職員と一緒に作りながら思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のアセスメントをスタッフ全員で記入し、その把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録の記入やカンファレンスを通して現状を把握し、多くの視点からその方にあった支援の有り方を探ります。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスやモニタリングまた必要に応じて担当者会議を開催し、変化や現状に則したプランの内容を検討している。	介護計画は、毎月モニタリングを行い、ミーティング時に話し合い、職員の意見や気付きを取り入れている。家族、利用者、関係者が自宅でサービス担当者会議を行い、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンスを行い、内容をスタッフ全員で共有し、ケアプランの援助の方針や長期、短期の目標を把握できるよう努めている。また、毎日の申し送り時に情報をしっかり伝達し、介護記録として残している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	カンファレンスを行い、内容をスタッフ全員で共有し、ケアプランの援助の方針や長期、短期の目標を把握できるよう努めている。また、毎日の申し送り時に情報をしっかり伝達し、介護記録として残している。		

ニチイケアセンター本巣

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	障害者生活支援センター「えがお」「ザールせいすい」などと連携をとり、サロンへの参加や機能訓練(運動や軽作業)に参加している。また、消防署に依頼し、避難訓練などの指導を受けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の送迎による受診が出来ない場合は本人のかかりつけ医に看護師などが付き添って受診している。	利用前からのかかりつけ医を継続し、希望がある時は受診援助をしている。自宅で発熱があった場合、家族に連絡して、かかりつけ医の指示を受けて、見守っている。受診後の結果、状態は家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	家族の送迎による受診が出来ない場合は本人のかかりつけ医に看護師などが付き添って受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院への情報提供や、お見舞いに行かせていただくなどして細かな連絡調整、情報共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のメンタルフォローを職員全員と話し合いながら、明るい気分で過ごしていただけるよう努めている。また事業所の医療行為に関する提供に誤解が無いよう、本人様やご家族と十分話し合うようにしている。	契約時に、家族の意向に沿い事業所ができる範囲で在宅での看取りの支援を行うことを説明している。事業所に対応困難な場合は他のサービスを紹介することもある。終末期の対応について、家族・関係者と話し合いながら支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署に依頼し救命救急法の講習をしていただいた。参加できなかった職員が緊急時慌てずに対応できるよう、心配蘇生法を張り出ししたり、ミーティング時研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者の講習を受講し、非難計画を消防署に提出している。毎年2回防災訓練に出来る限り多くの職員が参加するようにしており、利用者様と共に実施し消防署にも報告している。また、防災用品を定期的にチェックし、常に非常時に備えられるようにしている。	地震や夜間想定を含む避難訓練を年2回実施している。利用者や職員、地域の住民も参加して、消防署立ち会いの下、避難誘導や消火器の使い方の指導を受けている。簡易トイレ、水、食料品の備蓄を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修やミーティングを通じて、丁寧な声かけの仕方や名前の呼び方など、スタッフ同士でも注意し合えるよう、心がけている。また、個々の利用者様の生活や大切にされている事柄なども伺いながら参考になっている。	言い切るような言葉は使用せず、常に利用者視点で考え尊厳を重視した丁寧な言葉かけを行っている。ミーティングや朝礼時に、見られている、聞かれている意識を持って、常に接するように話をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の言動に拒否や否定をせず、寄り添って思いが達せられるよう、職員全員が努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の希望や好みに合わせて一日の流れを作っている。また、意思表示が上手く表出できない方には、表情や体調を考慮しながら、休んでいただけるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせた服装に対し、「お似合いですね。」と声をかけさせてもらったり、決まった理美容院に来てもらい、季節や好みに合わせた髪形やおしゃれを楽しんでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の片付けなど、一人一人が出来る事を強制することなく、職員と共に行っている。また、美味しく食べていただける食事形態や量など個々により配慮している。	利用者と一緒にホットケーキやお好み焼きなど手作りしている。収穫した野菜などは希望を聞いて調理している。気の合う利用者同士が同じ席となるように配慮している。2週間毎に、家族に献立表を渡し、自宅の食事と重ならないようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その日の体調や葉の具合など、本人様からの希望を取り入れ配慮している。食事の摂取量、水分量は毎日記録し、体調の変化について留意している。ご自宅での様子はご家族から通信等で伺っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きで、口腔内の状態を把握し、異常が見られたときは歯科受診を勧めている。また、口腔体操もその必要性を説明させていただき毎日実施している。		

ニチイケアセンター本巣

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により、排泄パターンを把握し、トイレへのご案内や御家族や本人様とも相談しながら、リハビリパンツやパットの種類などを検討し、自立に向けた支援を心がけている。	排泄記録によりパターンを把握し、トイレに誘導している。心配している利用者に対し、泊りの時に排泄パターンを把握して家族に伝えることで自立への支援を行った例もある。家族からの要望から、オムツの使い方、交換の方法などを教えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師や御家族とも情報を共有し、適切な排便パターンをつかみ、排泄チェック表により、個々の排泄状況を毎日チェックしている。排便コントロールについては通信紙で御家族と情報を共有している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	季節や体調に合わせ、また御家族や本人様の要望もお聞きしながら入浴していただいている。夜間はよく眠られるよう入浴剤を入れた湯で足浴にて対応している。	時間をかけてゆっくり入浴できるように支援している。車いすの方は、2人で介助することで、ゆったり入浴している。入浴の順番や日時など本人の希望に沿うように配慮している。泊りの時は、安眠できるように足浴も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	和室を希望される方など、どの部屋を使っていただくか、個々の身体状況を考慮し、又は本人様にお聞きしながらゆっくり休んでもらえるよう、配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋に基づき、看護師の配薬の下、誤薬の無いよう複数の職員で確認している。また、受診時には医師や薬剤師に事業所での生活や自宅での状況などの情報を提供し、アドバイスをいただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の利用者様の得意とされている事を本人様やご家族からお聞きし、それぞれの先生になっていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩には、本人様の要望をお聞きしながら、天気の良い日はほぼ毎日出かけている。地域の方々にはこちらから積極的に挨拶させてもらい、散歩の様子などを知っていただいている。	天気の良い日は、車いすの利用者も一緒に散歩に出かけている。急に外出を望まれた時は、本人が納得できるように個別に対応している。夜間に蛍を見に出かけることもある。	

ニチイケアセンター本巣

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は禁止はしていない。貴重品については事務所で預かりするようにしている。管理できる方については、利用中に一緒に買い物に出かける事もしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様が望まれた場合には電話をかけて頂いている(番号間違いがあると懸念される場合はこちらでかけさせてもらい、本人様に話してもらっている。)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	冬季は床暖房を利用し、絨毯を強いて横になってもらったり、ゲームや運動をしてもらっている。また、季節の花を摘んできたり、季節にちなんだ歌なども取り入れて、和やかに過ごしていただけるよう工夫している。	行事の写真やコメントを記載した職員手作りの壁新聞が掲示されている。水彩画や習字など利用者の作品を多く飾ることで、安心できる空間を作り、ゆったりと過ごせるよう工夫している。自由に昼寝ができるように畳の部屋も準備している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合うお客様同士ソファーを利用し、一緒にテレビを観ていただいたり、将棋やゲームなど自由に楽しんでもらえる時間も作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室で思い思いに過ごしていただけるよう、ご家族にお話し、必要なものはお持ちいただいている。	洋室や和室を選ぶことができ、自宅から時計やポータブルトイレを持ち込む事もある。出来る限り自宅の居室に近い配置となるよう工夫している。連泊する利用者には、できるだけ部屋を変えないように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの位置や居室の位置など利用者様に応じてわかるよう、絵や文字で明記するなど工夫している。		